

コロナ禍で何が変わり、 何が明らかになったのか

～研究成果とこれからの社会に向けた現場・研究者からのメッセージ～

2023年10月7日(土)10:00～12:00 @Zoom

- 2019年12月に報告されて以来、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による感染拡大は、様々な人々に大きな影響を与えました。その中から私たちが何を学ぶかによって、アフター・コロナ時代の男女共同参画社会の実現をはじめ、国民の安全・安心な生活・労働が可能となると言えます。
- 本シンポジウムでは、『昭和女子大学女性文化研究叢書第13集 コロナ禍の労働・生活とジェンダー』の研究成果をもとに、今後の新しい社会に向け、女性の視点も踏まえて、研究者・行政関係者・実践者・生活者など様々な立場から討議し、提言を行います。

オンライン参加ですので、どなたでもお気軽にご参加、お申込みください。

<予定プログラム>

総合司会 武川恵子(昭和女子大学女性文化研究所長)

趣旨説明

開会の挨拶

(第1部) 研究成果 発表/コメント

① コロナ禍の企業の労働グループ

大橋重子特別研究員(大正大学准教授)/瀬戸山聡子特別研究員(帝京平成大学特任教授)

② 介護家族の状況グループ

伊藤純所員(昭和女子大学大学院生活機構研究科教授)/吉田仁美特別研究員(日本大学准教授)

③ エッセンシャルワークグループ

北本佳子副所長(昭和女子大学大学院生活機構研究科教授)/斎藤弘美氏(全国母子生活支援施設協議会副会長)

④ 国際機関レポートグループ

青木美保所員(昭和女子大学食安全学科准教授)/池上紗矢香氏(内閣府男女共同参画局調査室長)

コメント 坂東真理子(昭和女子大学総長)

(第2部) アフター・コロナ時代に向けての課題とあり方

トークセッション

コーディネーター 坂東真理子(昭和女子大学総長)

質疑応答

閉会の挨拶



申込〆切:2023年10月4日(水)正午

申込フォーム:<https://forms.gle/1hP4VBV28LwC42Tu5>

昭和女子大学女性文化研究所 iwc-admi@swu.ac.jp